

20年変わらず関わり続けるアートクリエイター



BIRD生みの親

おお たけ かず み
大 嶽 一 省 さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.179

今年梅雨明けが早く、暑い夏がやってきました。過去70年で8回目となる梅雨明け後の七夕には、きれいな星空を見ることができました。みの〜れをすっぽり包み込む大きな森は、小鳥のさえずりやセミの大合唱で賑やかです。11月3日、みの〜れは20歳の誕生日を迎えます。みの〜れコミュニケーションキャラクタ―BIRDの生みの親で、東京都にお住まいの大嶽一省さん取材します。

この先20年の リスタート

大嶽さんがみの〜れに関わるようになったのは、みの〜れの建築工事が始まった2001年のこと。みの〜れの建築設計会社の小宮朗さんと大嶽さんの作品との偶然な出会いがあったからです。みの〜れ建築工事現場

の仮囲いをキャンバスにして7羽の大きなBIRDを描き、小中学生約90名と色を付けました。「思い出は昨日のようです。またやりたいなって思うくらい面白かった」と話します。

BIRDが生まれたきっかけは、1990年代後半に出始めた、パソコンで絵を描くソフトを使って保育園に通う娘の夏休みの宿題の絵を描いたこと。それがBIRDだったそうです。その後、寝ているときに突然「100羽

のバードが天から頭の中に降ってきたんですよ」。これはすぐに描かなくてはいけないと思い、夜中に飛び起きて書齋に行って一晩で100羽のBIRDを生み出しました。

「昨年亡くなった母がつまみ絵をやっていた影響からか、BIRDを立体にすることを思いついたんです。同じ絵を2枚プリントして重ねて、1枚はしっぽを少し曲げてみよう。影ができるし、斜めから見ると面白いと思つて、通常よりも厚みのある額を6色作ってもらい、一気に100のBIRDを作りました」と懐かしそうに振り返ります。

大嶽さんにとってみの〜れは「BIRDを通してアートコミュニケーションというポイントと自信を持って言えることは、僕にとって非常にありがたいことです。みの〜れに

関してはかなり思い入れが深いです」と嬉しそうに話してくれました。

20年間ずっと変わらずみの〜れに関わり続けてくれる大嶽さん。「当然のことだと思つています。1回付き合ったら、相手が『大嶽さん、もういいです』というまで付き合います。僕、周年事業に携わるのが大好きなんです。これまでの20年を振り返り、思いを共有し、この先20年を考えるリスタートの日。誕生日って大切ですよね」。

10月29日(土)〜11月5日(土)まで、みの〜れ風のホールで「BIRDぬり絵アーチストたちの芸術展」が開催されます。

また、みの〜れ20歳の誕生日、11月3日に開催されるリレートークで大嶽さんも登壇されます。ぜひ、どちらの企画もお越しください。

(藤田佐知子)